

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100678		
法人名	社会福祉法人 新清会		
事業所名	グループホーム あさむつの森		
所在地	福井市引目町第21号9番地の2		
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成27年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症状によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的なぬくもりのある生活環境の下で生活の喜びや満足感が得られるよう、人格を尊重しつつ介護サービスの提供と支援をします」という運営方針に沿って、日々の生活を送って頂いております。また、サービスとしては、生活の中で役割を持って頂く関わり、管理栄養士による栄養バランスのとれた食事に加え、従来の集団での外出を、地域で開かれるデイホーム、昔馴染みの喫茶店や嗜好の物を食べに行く等の個別の外出へとシフトしていきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年4月に、母体法人が運営する特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンター等が立ち並ぶ一角に開設した。田園と山に囲まれているため、生活の中で季節の移り変わりを実感することができ、利用者はゆったりとした時間を過ごしている。利用者一人ひとりに昔の生活を思い出してもらうために、共用空間に昭和初期の家族風景の絵を展示し、冬は炬燵で皆が楽しめる場を作るなど工夫している。地域住民に事業所や認知症の理解を深めてもらうために、地域の祭りなどに積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「家庭的なぬくもりの中で、ゆったりと自分らしい生活を。」共有し運営推進会議における意見などを取り入れ、実践につなげている。	事業所独自の理念「家庭的なぬくもりの中で、ゆったりと自分らしい生活を。」を共用空間に掲示し、職員は常に意識しながら支援している。職員は、気持ちにゆとりを持つことが家庭的なぬくもりにつながると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民主催のコンサート、自治会型デイホームへの参加や喫茶店、ラーメン屋等への外出も行っているが、地域側からのアプローチがやや少く事業所より関わりを依頼している。公共施設や地域における行事への参加を推進している。地域駅前の花の水やりボランティアなども行っている。	地区のボランティア活動に参加したり、中学生の体験実習を受入れたりしている。できる限り地域の活動やイベントに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様はもちろん、外出先での市民にも情報を提供している。認知症介護サポーターへの登録推進やイベントに参加をしている。学生実習を受け入れている。地区自治会長へ(認知症・AED)講習などの提案をしている(苑内の専門職による)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議が行われ、自治会のデイホームへの参加等、そこでの意見を取り入れようとしている。また、会議内容を管理者より職員への情報共有を行っている。	家族代表、清明・浅水地区の民生委員、地域住民代表2人、地域包括支援センター職員が参加している。議事録は職員がいつでも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営についての市担当者へ連絡を取っている。各スタッフが心がけ、行っている。管理者及びケアマネージャーより他職員への情報共有を行い、関係性を構築している。	不明な点がある時など、必要に応じて市職員に相談し、アドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待などはない。玄関の施錠は行っていない。可能な限り外出等を行い、ストレスの緩和に取り組んでいる。拘束と言われる範囲は広く、管理者やケアマネに相談し、より良いケアに取り組んでいる。	職員は、日頃から言葉の拘束がないよう注意している。徘徊がある場合は、利用者の気持ちに寄り添いながら付いて歩く。日中は玄関を開放している。	職員間で日頃の実践における学びを共有するために話し合いを行う等、さらなるサービスの向上に向けた取組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修等を通じて虐待の認識・知識構築への努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所には、社会福祉士を配置している。必要とあれば、制度につなげることも可能となっている。苑内・苑外研修への参加により、知識構築への努力を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族への直接説明は、管理者・ケアマネが行っているが、他職員の意見を組み込んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時などに遠慮なくご家族との意見などを言い合える関係にある。また、ご家族には悩みや不安がないか等も聞いている。要望を聞いた職員は管理者へ申し送り、情報の共有を運営に反映させている。	家族の面会時に意見を聞いている。定期的に送る請求書に、利用者の日々の生活等についての情報を同封している。理事長へ直通の私書箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議、委員会を開き、意見を聞いている。定期的に委員会の開催、申し送りによる提案に対する意見交換を行っている。	職員の意見は、サービス向上委員会で取り上げ会議録に残している。管理者は、職員が意見や提案を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、職員からの意見や提案を基に全体目標を設定し、優先順位を決め段階的に実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	苑内・苑外研修への参加推進により、向上心を高める努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内、苑外研修に参加させて頂いている。介護力向上の為、都度意見を聞き、トレーニングの場としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が参加した勉強会等の資料は他職員に開放している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。状態観察はもちろんだが、その人との信頼関係を築くことに精力を傾けている。生活の中での会話を傾聴することで、本心をくみ取り、関係性向上への努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との信頼関係を築くため、行事への声掛け等を通じて会話の機会を多く持っている。面会時の会話や意見は申し送り・ケースにおこし、関係性向上への努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴した職員は他職員と情報を共有し、優先順位を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢者は知識の宝庫なので、相互に与え、与えられる関係を大切にしている。また、一緒に生活する仲間・人生の先輩として尊敬し、良い関係を作れるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えるという視点を持ち、ご家族の意見も尊重している。行事への参加を促し、一緒に参加できるように、声掛けをし、家族も一員として良い関係をつくれるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑内・外での行事スケジュールを伝え、参加を促している。また、馴染みの地域、喫茶店等への外出も行っている。	一人ひとりの要望を聞くように心がけ、必要に応じて家族にも確認している。馴染みの喫茶店や美容室等に同行したり、年賀状のやり取りの支援をしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。声掛けやレクを通じて、利用者同士の交流を図っている。特にコミュニケーションをとるのが不得意な利用者様には職員が間に入り、きっかけをつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設を訪れる家族と交流している。時々野菜を売りにきてくれるようになった。系列施設へ移動した利用者様に面会に行ったり、入院した際、管理者・ケアマネが面会に行く努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々の生活リズムを乱さぬよう配慮している。どうありたいのか、何がしたいのかを常に意識するようにしており、家族とも話し合っている。また、ケアプラン作成の際には、本人への傾聴はもちろんのこと、介護職員の意見も反映するよう努力している。	一人ひとりの表情やしぐさ等から思いを把握し、職員間で共有している。個人の嗜好を重視し、本人が好むおやつを提供している。飲酒を希望する利用者にも対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族等から情報を得るようにしている。またその情報は他職員にも共有され、いつでもみれるようにファイリングしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。できない所ではなく、できる所に特に着目するようにしている。また、介護日誌、ケースに情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング・ケアプランの見直しを行い、計画修正の必要性を検討している。	定期的にモニタリングを行い、状態の変化があればその都度対応している。ケアマネジャーは、担当職員や家族、本人から思いを聞き取り、介護計画を作成している。年2回および必要時にケア会議を開いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、連絡帳を活用し、管理者・ケアマネに相談を行い、情報共有に努めているので、スタッフの情報共有はなされ、申し送られていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりよがりの対応にならない様、他職員の意見を聴き、利用者様にとって、より良いサービスとなる様、努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の情報の把握につとめている(公民館・ハーモニーホール・ベル等)利用者様の持てる力を把握し、外出などの参加を実施、楽しめる生活への努力を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診などを活用し、健康管理を行っている。また、受診・往診前にはケース・申し送りをを行い、適切な医療につなげられる様、努力している。	利用者・家族が希望するかかりつけ医を、家族同行で受診している。医師には書面で情報を提供し、診察の結果は家族から報告を受ける。定期的な医師の訪問がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース・申し送りを把握した上で、往診・医師・看護師と連携を密にとり、相談体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・ケアマネが面会し、担当医師と入院中の状況把握に努めており、その情報は他職員にも申し送られている。外泊訓練の実施を行い、早期の退院へと取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	直接の説明は管理者・ケアマネが行っているが、他職員にも情報は共有され、協働作業として取り組んでいる。	入居時に、看取りを行わないことを家族に説明している。重度化した場合や終末期は、家族や本人の意向を確認しながら、病院や他の事業所への移行を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを提示し、常に把握できるようにしている。また、普通救命講習の実施を行い、救命スキルの向上もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と協力し、定期的に避難訓練を行っている。	母体法人で火災訓練を行っている。マニュアルは職員が確認しやすい場所に保管し、連絡網は見やすい場所に掲示している。各職員の役割について話し合っているが、災害時の行動を詳細に把握しているとは言い難い。	地域住民に避難訓練への参加を依頼したり、事業所独自で訓練を行ったりするなどし、災害時にできるだけ不安なく行動できるような取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誰にでも同じ対応でなく、その人との距離感によって対応を変えている。また、研修参加により、知識を高め、人生の先輩に接する事を常に思い、対応する努力をしている。	排泄等の際は、他の利用者に気付かれない様にさりげなく支援している。利用者と十分に信頼関係を構築して支援を行っている。パソコンはすぐに閉じるなど、個人情報の取扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での何気ない会話から希望を聞き取っている。また、利用者様から話を傾聴する以外に、利用者様同士の話を傾聴することで、本人の思いをくみとる努力はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活パターンを把握し、本人の希望によって食事や入浴の時間をずらす等の対応はできている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え介助の際は、洋服の選択ができるよう働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗浄・拭き等、得意とする作業を把握し、参加を促している。	食事の好みを聞き取っている。おかずは母体法人の管理栄養士が献立を作り、調理をするが、ご飯、みそ汁は事業所で利用者と一緒に作り、おかずの盛り付けも行う。職員は利用者が自主的に食事の準備や後片付けが出来るよう配慮している。利用者は時々おやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の残渣量や残渣物を把握し、声掛けの言葉を選択し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施をしている。※歯科衛生士による確認が受けれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁した時の利用者様のプライドを傷つけないような言葉かけを行っている。	各利用者の排泄パターンを把握し、個別に声かけ等を行うことにより、紙パンツの利用者もトイレで排泄ができるよう支援している。紙オムツの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールを行い、下剤の調整を行っている。また、排泄のパターンをつかめるよう、グラフ化し、他職員と情報を共有、時に担当医師と連携し、努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	規定回数の把握のため、曜日を決めており、職員人数の都合もあり、個々にそった支援は出来ていない。	基本的に週2回としているが、要望があれば増回も可能である。シャンプーやリンスは本人の好みのものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯に睡眠がとれていない場合、申し送りにより、休息をすすめるようにしたり、温度の把握に努めている。その他にも自由に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はファイルしてあり、いつでも見られる状態にしてある。また、服薬変更時には作用を記録し、Drに申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプラン・フェイスシートは、常に見られる状態にしてあり、新たな発見があればケース記録している。また、好みの場所への外出、飲酒も行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の職員人員や距離により、施設所有の車の使用制限のため、必ずしも希望に添っていない部分もある。	年に数回、家族の協力を得て外出を計画している。天気の良い日は、近隣への散歩や中庭で喫茶を楽しんでいる。コミュニティバスを利用してショッピングにも行ったこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望等に応じ、金銭の自己管理を行って頂いており、買い物などに使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い等送って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や各種行事のポスターを貼っている。また、利用者様の意見を聞き、カーテンの開閉はまかせている。	居間に炬燵があり、家庭的な雰囲気となっている。居間の大きな窓から見える風景からは、季節の移り変わりを感じることができる。玄関には、利用者、家族に分かるように全職員の名前と写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこで過ごしたいかを利用者様に聞き、まかせている。他利用者と過ごしたいという思いを組んだ時は職員が間に入るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗や箸など本人様のなじみのある物などを置いてある。自宅の物を持ってきて頂き、本人の過ごしやすい、安心しやすい空間にしている。	居室には、利用者の好みの物が置かれたり貼ったりしてある。馴染みの家具なども持ち込まれ、その人らしい居心地のよい居室となっている。トイレ付きの居室が2部屋ある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が得意とする作業を見極め、伸ばすように努力している。自分を必要としている実感を持って頂けるよう努力している。		